



表紙の写真

豊洲の夜景

東京都江東区豊洲

2001年に大規模な土地の利用転換を見込んだまちづくり方針が発表され、2003年からスタートした豊洲の再生事業。行政と民間のパートナーシップのもと、ウォーターフロント開発のモデル地区にふさわしい街に育ちつつあります。冬には産業遺構のドックを活かしたオブジェを中心にイルミネーションが映え、街の個性を冬空に放っています。

## ❖ アンケートを実施しています ❖

同封のがき、及びUR都市機構のホームページにて、本誌に関するアンケートを実施しております。ご意見、ご感想をお寄せください。

## 編集後記

今号では不動産投資の専門家、平山重雄さんをお迎えし、低迷が続く不動産市場でのUR都市機構の役割について対談を行いました。その役割を担ったまちづくりの事例として、東京都心部(大手町・豊洲)の都市再生をご紹介します。

また、19ページでは、取手井野団地(茨城県取手市)で開催された個性豊かなアートイベントをご紹介します。まちづくりのコーディネーターであるとともに、このような地域活動の活性化へのサポート役となるのも、役割のひとつと考えています。

街の元気を生み出すプロとして何をすべきか。これまでの経験と知恵・人材を生かし、活動の幅を広げてアップロードしていく所存です。

ご高覧いただければ幸いです。

季刊「ユアールプレス・冬号」

Vol.18 (2009年1月)

発行/独立行政法人都市再生機構

〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1

横浜アイランドタワー

Tel.045-650-0881 Fax.045-650-0889

編集・制作/株式会社博報堂

印刷/株式会社大分アロー印刷

## 「多摩平の森」団地の再生計画がLivCom2008にて環境配慮型プロジェクト賞銀賞を受賞しました



授賞式にて、東日本支社業務第二部長中山茂樹(中央)、水井淳(左)、有本幸代(右)、写真下は表彰状

平成20年11月10日、中華人民共和國広東省東莞市にて、LivCom2008Awardの表彰式が行われ、UR都市機構の「多摩平の森」団地の再生計画が環境配慮型プロジェクト賞銀賞を受賞しました。

LivCom (The international Awards for Liveable Communities)とは、「質の高い環境・景観の保全・創造による住みよいまちづくり国際賞」として、UNEP (国連環境計画)、IFPRA (国際公園レクリエーション管理行政連合)の承認のもと、英国に本部を置くNation in Bloom Ltd.により運営される国際的表彰制度です。賞は優れた実績をあげた自治体などに与えられ、2008年には世界各国から280を超える応募がありました。

2004年からは公共・民間の両者から応募できる環境配慮型の「プロジェクト賞」が創設され、UR都市機構の「多摩平の森(東京都野市)」団地の再生計画が最終審査出場の20プロジェクトに選ばれ、東莞市の会場での最終プレゼンテーションを経て銀賞を受賞しました。

この賞の評価項目は①景観の改善・向上、②自然・文化・歴史遺産の活用・保全、③環境の質の維持・保全、④コミュニティとの参画・協働による持続可能性の実現、⑤計画的な行政施策の推進、の評価項目に沿って行われます。多摩平の森は、40年の歳月を経て地域の環境資源となった団地内の木々や自然緑地に重きを置いて「緑の承継と育成」をテーマに行った建替えプロジェクトです。〈歴史、文化の承継〉〈コミュニティの育成〉〈既存樹木の保存と活用・緑のネットワークづくり〉が高く評価され、受賞に至りました。世界の優れたまちづくり事例にも触れ、今回の参加が今後のまちづくりへの貴重な財産となりました。

▶ <http://www.ur-net.go.jp/urbandesign/>



40年の歳月を経て団地の再生を行った「多摩平の森」。団地自治会や周辺住民の方と共に自然に触れ合えるまちづくりを行った

## Report 「東京⇄成田SKYGATEシティ UR千葉ニュータウンフォーラム2008」を開催しました

2010年の成田新高速鉄道開業予定により利便性、価値の向上が期待される千葉ニュータウン。ビジネスロケーション、ハウジングロケーションとして関心を寄せる方々に向けて、11月7日、東京電機大学千葉ニュータウンキャンパスにて「東京⇄成田SKYGATEシティ UR千葉ニュータウンフォーラム2008」を開催しました。



### ▶ フォーラム前には、現地見学会を開催。地区の魅力をご覧いただきました

千葉ニュータウンは都心から最速45分という位置にありながら豊かな自然に恵まれた3市2村、北総線沿線の6駅にまたがる大きなエリアです。見学会には、企業立地の視察を目的とした各企業の方、また、建設業、不動産業、そのほかまちづくりの参考としてほかの自治体の方など、合計46名のご参加がありました。千葉ニュータウン中央駅、印西牧の原駅、印旛日本医大駅周辺の3エリアをバスで巡回し、周囲の施設や自然環境などのロケーションを直にご覧いただきました。



千葉ニュータウン中央駅前から、4台のバスで現地視察へ

### ▶ 鼎談やパネルディスカッションで、街の魅力と今後の展望をご案内しました

千葉県知事をはじめ各分野のエキスパートをゲストに迎え、それぞれの方からSKYGATEシティへと注目が高まる千葉ニュータウンの展望、UR都市機構への期待が語られました。また、UR都市機構から北総台地の地盤のよさ、これから誕生する21住区の取り組みイメージ(低炭素、子育て支援など)、施設用地・住宅事業用地としての優位性などのプレゼンテーションを行うとともに、エンドユーザーと共働でまちづくりを行う姿勢を示しました。最後は山崎山洋印西市長から「このフォーラムで千葉ニュータウンの無限に広がる可能性を確認いただけたと思う。よい土地は早いもの勝ち。皆さんに注目していただきたい」という力強い言葉をいただき、フォーラムは幕を閉じました。

#### 鼎談 「千葉ニュータウンからSKYGATEシティへ」



堂本暁子氏  
千葉県知事

「職・住・医・育など、総合的な機能を持つ都市として、発展するパワーを秘めた土地。その可能性を皆でつくり上げ、ボトムアップできるよう、県がプラットフォームをつくりたい」



大西隆氏  
東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授

「1.空港に近接した国際都市、2.大都市と空港アクセスを生かした産業業務の立地、3.アメニティ・医療と福祉の都市。千葉ニュータウンはその三つの要素を満たす「小さな世界都市」



高松慶幸  
UR都市機構理事長代理

「千葉ニュータウンのまちづくりを始めて来年40年。後半戦にさしかかった。これから手がける約100haの土地は、低炭素、自然環境など、新たな切り口で行ってきたい」

#### プレゼンテーション 「未来へ羽ばたくベスト・ロケーション! 東京⇄成田SKYGATEシティ」



西川りゅうじん氏 (マーケティングコンサルタント)

「東京と成田を結ぶ位置関係となることから、沿線の街を「東京⇄成田SKYGATEシティ」と命名。「タウン」の域を超えて「シティ」へ……。千葉ニュータウンは、この地区に訪れる「CHANGE」を「CHANCE」にしてアップグレードしていく可能性が詰まっている」

#### パネルトーク 「2010年〈成田新高速鉄道〉開通で高まる沿線の魅力と価値」

柏木孝之氏 / コーディネーター  
(西武文理大学サービス経営学部長)  
「さまざまな視点からSKYGATEシティの魅力がひも解かれ、千葉ニュータウンを含めた沿線の街への期待が高まった」

西川りゅうじん氏  
「世界の一流の街には緑が多いのでは? 自然、利便性など、地の利を生かしてSKYGATEシティは空港とともにアップグレードしていく」

織作峰子氏 (写真家)  
「海外からの玄関口となるこのエリアは、飛行機から見た俯瞰の景色も重要。自然豊かな環境を生かし、美しい景色に育って欲しい。そのまちづくりがこれからは、土地として魅力的」

山内弘隆氏  
(一橋大学大学院商学研究科長・商学部長)  
「成田の不動産ロジスティックシステム、また、成田新高速鉄道が国際的空港と都心の距離を30分台に縮めたことで東京の競争力はアップし、このエリアはアジアのゲートウェイに育っていく」



左/柏木氏 右/西川氏



左/織作氏 右/山内氏

▶ <http://housing.ur-net.go.jp/cnt/>